

シェアすることで、誰かの未来が広がる



概要

インド洋に浮かぶ“しずく”型の島国、スリランカ。約3人に1人の女性が「生理の貧困」状態にあり、十分な生理用品や月経教育、労働の機会を受けられずに過ごしています。

しずくスリランカは、紅茶農園に暮らす女性たちへの布ナプキン配布を通じ、「未来」へのアクションを起こす教育・社会プロジェクトとして2022年2月にスタートしました。

プロジェクトの仕組み



第1回支援報告

寄付総額	193,905 円 + 44,500 LKR (スリランカルピー) (*2022年2月～9月6日までに)
支出総額	127,625 円 (布ナプキン製造費) + 9,000 LKR (使用方法ブックレット製作費) + 7,500 LKR (現地輸送費) ※残金: 66,280 円 + 28,000 LKR は第2回目～の支援活動に使用させていただきます。
活動レポート	皆さまからお預かりした寄付金をもとに、2022年7月、第1回目のプロジェクト・アクションとして、合計125名の紅茶園の女性たちに布ナプキン配布&教育プログラムが実施されました。

第1回アクションまでの道のり

2022年
2月

しずくスリランカ公式インスタグラムアカウント @sizukusrilanka が開設！ハッシュタグをつけてSNS上でPRしていきます。
#sizukusrilanka
#padsforward



現地リサーチにより、初回配布125名の希望がありました！目標額：130,000 円を設定し、寄付を募っていきます。

2022年
4月

2022年
5月

しずくスリランカプロジェクトに関連したチャリティーイベントが都内で開催、28日の世界月経衛生 DAY にあわせ目標金額を上回るご寄付をいただきました。



5月21日 @kano_labo 様主催イベント

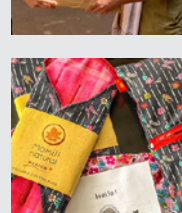
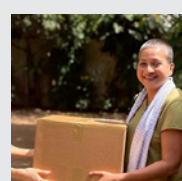
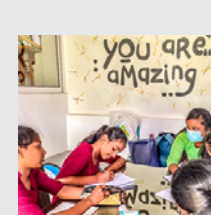


布ナプキンセットの製造が始まりました！届けることを楽しみにミシンを動かします。一方で、スリランカは国家経済破綻の危機に。連日3時間の停電、ガスやガソリンを求めて列に並ぶ日々…。

2022年
6月

2022年
7月

- 13日… 混乱を迎えながらも布ナプキンの製造が終了し、配布手段確保に奔走する現地のボランティアスタッフ。努力は実を結び、キャンディから12キロ離れたハンターナに布ナプキンが運ばれます。
 - 17日… まずは99名の紅茶園の女性たちに布ナプキン配布
 - 24日… 残り26名の女性たちにも布ナプキン配布が完了
- 月経についての基礎知識と布ナプキンの使い方についてのワークショップのあと、現地スリランカ人コーディネーターとスタッフが、集まってくれた女性たち一人ひとりに手渡しで布ナプキンを配布していきます。現地のボランティアスタッフの主体的なアイデアで月経期間中に適したヨガクラスも開催されました。



アクション参加者からの声

アクションに参加した女性たちの多くが、フィードバックフォームに「本当に役に立った」と書いています。そして、深刻な経済危機という厳しい状況下で生理用品が無償で提供されたことに、感謝の声を多くいただきました。

配布時に行われたワークショップでは、布ナプキンの使い方、乾かし方、洗い方などの情報のほか、月経に関する迷信や真実について知ることができ、このプロジェクトがより衛生的な生活を送るために、本当に役に立ったと全員が答えています。

女性たちは布ナプキンに非常に満足しており、それによって良い環境をサポートできることにも喜びを感じています。同時に、布ナプキンを使うことで毎月の出費も抑えられるようになりました。

7月24日の配布時に行われたヨガ・セッションでは、マインドフルネスのワークショップがとても好評で、もっと開催してほしいという声が聞かれました。特に月経時に痛みを和らげるための呼吸法や身体を落ち着かせるテクニックは、彼女たちにとって有益なものになりました。



7月17日



7月24日

紅茶農園の女性たちより

- “布ナプキンは使い捨てナプキンのように熱がこもることがなく、使い心地が良いです”
- “薄いのにしつかり吸収してくれます。軽くて快適で、漏れることもありません”
- “汚れが簡単に落ちるので、洗濯がとても楽です
使用中や洗濯中に不便を感じないし、使い勝手も良いと思います”
- “この布ナプキンを使えばお金を節約することができるし、環境も守れます”
- “使い捨てナプキンのような嫌な臭いがしないし、また、肌荒れが少なくなりました”

支援現場スタッフより

しずくスリランカを通じてご寄付くださったみなさん、私たちが支援する紅茶農園の女性たちに再利用可能な生理用品を配布していただきありがとうございます。貧困にあえぐ女性たちへの素晴らしい支援であると同時に地域の持続可能性の促進にもつながります。

The T.E.A. Project

現地コーディネーターより

今回女性たちに配布された布ナプキンは数年間使用することができ費用対効果が高く、生理用品を買う余裕のない紅茶農園の女性たちにとって素晴らしいサポートになりました。布ナプキンは環境にやさしいだけでなく、女性たちは高品質の布ナプキンを使うことで休むことなく仕事や学校に通えるようになり、自信も生まれています。

ディーシャナ・アマラセカラ
(Theva Residency)

第1回アクションを振り返って

今年2月のプロジェクト立ち上げから現在まで、わずか半年ほどの間にたくさんの皆様よりあたたかなご寄付をいただくことができ、本当に感謝申し上げます。個人の方からお店やイベントでのチャリティーなど、支援の輪が広がっていることを実感しています。

一方で、スリランカの経済的・政治的な状況の悪化により、当初の予想・計画よりも1か月以上遅れてのアクションとなりました。日本の皆様、特に今回ご寄付いただきました皆様におかれましては多大なご心配をおかけしましたことお詫び申し上げます。未曾有の混乱のなか、製造・配送に奔走してくれた現地ボランティアスタッフ、関係者の皆様に心より敬意を表するとともに、今後はいっそう持続可能な支援にむけてプロジェクトの体制を整えてまいりたいと思います。

そのために、募金箱や案内リーフレットの制作、現地教育プログラムの充実にむけて話し合いを進めています。また、1回目のアクション終了後にもチャリティーイベントや寄付つき商品の販売が日本各地で企画実施されています。そういった皆様の活動もこれからSNSを通じてお届けさせていただきます。

Pads Forward — シェアすることで、確実に「誰か」の未来は広がっています。引き続きあたたかな眼差しで、ともに「未来」にむけたシェアをいただければ幸いです。

2022年10月吉日

しずくスリランカ

山下千朝 (Amrita 株式会社)
伊藤理恵 (Momiji Natural Corporation)